

■ 地域発見講座

講座	日時	テーマ	講師
第1講	6月4日(土) 10:00～12:00	古典に出会い、学問に出会う ～様々な源氏物語のかたち～	立命館大学文学部助教 須藤 圭
第2講	6月11日(土) 10:00～12:00	ご本尊釈迦如来拝観と蓬萊庭園鑑賞	大池寺住職 清水 壽晴
第3講	6月25日(土) 10:00～12:00	のびるもちでまちおこし	甲賀もち工房代表 河合 定郎
第4講	7月2日(土) 10:00～12:00	東海道五十三次土山宿散策	東海道士山宿観光ボランティア 鵜飼 章尾

第1講 古典に出会い、学問に出会う ～様々な源氏物語のかたち～ (会場: 甲賀図書情報館)

受講者待望のカレッジが開校。この日の記念講演は、昨年度に強い要望のあった「古典を読む」に関わる講座となりました。「源氏物語」は多くの著名人が訳本を出版しておられますが、時代によって訳が異なる部分があり、物語に登場する人物像が真逆に表現されている場合もあること等、興味深いお話をいただきました。サブタイトルにある「様々な…」の意味が、これでよく理解できました。

また、学問とは、知識を得るということではなく問いかけることである、このカレッジは問い続ける場であってほしいとのお話があり、心に残る言葉のひとつとなりました。

受講生からは、「源氏物語の現代語訳をどれか読んでみたい」「生涯学習のねうちが見出せた」等の感想をいただきました。



第2講 ご本尊釈迦如来拝観と蓬萊庭園鑑賞 (会場: 大池寺)

742年、高僧行基菩薩が、日照に悩む農民救済のため、灌漑用水として「心」という字の形に4つの池を掘り、その中央に寺を建立しました。ここに、一彫り毎に三拝したという「一刀三礼の釈迦丈六坐像」が安置されました。時代は流れ、江戸初期寛永年間、小堀遠州の手によって「蓬萊庭園」が造られました。書院前サツキの大刈り込みは、大洋の大波小波、宝船、七福神が表現されています。こんな由緒ある大池寺で第2講が開催されました。

ご住職の丁寧な説明を受け、「地元にこんな宝があったのか」、「やっぱり背景を知ってから鑑賞させていただくと違って見える」、「如来と菩薩の違いを知った」等、受講生から感嘆の声が寄せられました。学習後、枯山水の庭園を見ながらいただいた抹茶も格別の味であったようです。



第3講 のびるもちでまちおこし (会場: 甲賀もちふる里館)

今回は、第6次産業の最前線での学習でした。取り組みの概要を聞く班とあん餅づくりの実習班、2グループローテーション方式で本講は進められました。もち米づくりに適しているという地域の特性をベースに、高齢者を活用したまちづくりの推進、アイデアを駆使し時代のニーズに合った商品の開発、環境にやさしい農業の推進が熱っぽく語られ、受講生の心をつかみました。あん入れの実習も短時間で効率よく組み込んでいただき、密度の濃い講座となりました。受講生は、地域の団結力やリーダーの働きに驚きが隠せない様子でした。

講義後、併設の食堂で昼食をされる方や米粉でできたうどんやたい焼きをお土産に買って帰られる方もあって、楽しい半日が過ごせました。



第4講 東海道五十三次土山宿散策

(会場:東海道伝馬館、本陣)

会場は伝馬(てんま)館。平成 12 年に開館されましたが、まだまだ知れわたっているとはいえません。五十三次各宿場の切り絵や大名行列の人形が展示され、当時の面影が偲ばれる穴場となっています。この日は、観光ボランティアの鵜飼氏に講師をお願いし、地元で制作されました、土山宿の「カルタ」を柱としたプレゼンテーションで学習をしました。江戸時代の歴史的な秘話なども説明に織り交ぜていただき、興味深い講座となりました。

また、近くの常明寺に葬られた文豪「森鷗外」の祖父母と母にまつわるお話も淡々とした語り口で入れていただき、古(いにしえ)に思いを馳せることができました。最後は、「土山家本陣跡」に足を運び、明治天皇が宿泊された記録や今も大切に保管されている「宿帳」のお話などをお伺いしました。受講生は、歴史を大切にされる土山の気風に感心しきりといった様子でした。



平成28年度あいこうか生涯カレッジの記録

■体験的学習講座

講座	日 時	テーマ	講 師
第5講	8月20日(土) 10:00～12:00	陶製「表札」の作成	県立信楽高等学校 教諭 杉村 大樹
第6講	9月10日(土) 10:00～12:00	生活の中の書	県立甲西高等学校 教諭 富永えり子
第7講	9月17日(土) 10:00～12:00	かんぴょうを使った料理を楽しむ	県立水口高等学校 教諭 大森比呂子
第14講	12月3日(土) 10:00～12:00	葉牡丹の寄せ植え	県立甲南高等学校・高等養護学校 教諭 野坂 鉄夫
第16講	12月18日(日) 14:00～16:00	演奏会を楽しむ	大津シンフォニックバンド

第5講 陶製「表札」の作成

(会場: 県立信楽高等学校)

昨年度好評を得たので、今年度も同内容で実施。初体験の方も多く、彫りの難しさを体感。集中力が必要なこと、道具を適切に使用すること等を学びました。焼き物には、手ひねり、ろくろ、たたら成形等の技法がありますが、今回のように、板状にした粘土でつくるたたら成形にはあまり馴染みがなく、インパクトも大きかったようです。また、粘土とガラスをセットにした作品づくりは、イメージになかったようで、出来上がりに大きな期待が寄せられました。受講生一同、講師先生の親切な手ほどきにいたく感動されました。「他人のすばらしい作品にびっくり、自分の作品にがっかり、でもいい経験になった」「字面の少ない自分の名字にはじめて感謝」、こんな感想もありました。



第6講 生活の中の書

(会場: 県立甲西高等学校)

受講生、終了後の廊下での会話。「わりにおもしろかったなあ」「また家でもちゃんとあかんなあ」。長年、書道から離れていた人も、今回の経験で、筆に親しんでいこうとする気持ちが高まったようでした。

講師先生の掲げられたテーマが見事に具現化された今回の講義でした。筆を動かしながら、篆書、隸書、草書、行書、楷書の紹介があり、甲骨文等、古代の文字の練習がありました。

そして最後に額にはめ込む厚手の紙が渡され、清書となりました。朱を入れ完成。受講生は、自分の新しい一面を見たような表情をされていました。この日は、25名もの生徒さんにサポートしていただきました。



第7講 かんぴょうを使った料理を楽しむ

(会場: 県立水口高等学校)

メインディッシュは八幡巻。ごぼうを牛肉で包み、それをかんぴょうでぐるぐる巻にする。鍋で調味料とともに煮ればできあがり。かんぴょうのてんぷらは、さきずめの味でヘルシーこの上なし。それにかんぴょうとかぼちゃの蒸しパン。ご飯つきで立派な昼食となりました。「かんぴょう料理の思いがけないおいしさにふれた」「牛肉がかんぴょうでボリュームアップ。主人が喜びそう。家でも是非作りたい」「地元食材であるかんぴょうの魅力を知った」等、驚きの感想が寄せられました。「袋の味でなく、おふくろの味を子に伝えたい」「水高の家庭科の授業を受けたい気持ち」こん



な意見も記されていました。何十年かぶりに母校を訪れ、感慨深くあたりを見回している人、初めて水高に入った人、受講生は様々でしたが、「高校での体験学習を増やしてほしい」との思いが募る講座となりました。

第14講 葉牡丹の寄せ植え

(会場: 県立甲南高等学校・高等養護学校)

すでにガーデニングを楽しんでおられる方も何人かあったのですが、植え付けや土つくりの仕方について専門的に学ばれたことがなく、この講座は、日常生活に直接役立つ大変有意義なものとなりました。また、普段はほとんど土に触れないという方にも丁寧に分かり易く指導をしていただき、寄せ植えの魅力が伝わる印象に残る講座となりました。「植え付け後、上から土を押さえつけない」「肥料になるものは、土と混ぜず、地面の上に置く」の指導に「エッ!」という声が出そうでした。しかし、その理由を解説していただくとな納得のできることで、受講生一同、大変満足 of いく体験講座となりました。

「土つくりの基礎や成長のしくみがよくわかった」「先生の少しのアドバイスで作品がぐっと良くなった」等、喜びの声も多く寄せられました。肥料は水に溶けてはじめて養分となる等のご指摘も妙に新鮮な言葉として心に残りました。



第16講 演奏会を楽しむ

(会場: 大津びわこホール)

大津シンフォニックバンドの定期演奏会に参加。この日のプログラムは、「ウィークエンド・イン・ニューヨーク」「『アラジン』よりセレクション」「私のお気に入り」「ミュージカル『レ・ミゼラブル』より」「第64回全日本吹奏楽コンクール報告演奏」「第六の幸福をもたらす宿」、そして嬉しい「伝説の『演歌』メドレー」でした。指揮者は、甲賀市とゆかりの深い森島洋一先生と中嶋民男先生。びわこホールに初めて足を運ばれた受講生も



多く、荘厳な会場の雰囲気とボリュームあるすばらしい演奏に感動さ

れ、あいこうか生涯カレッジを締めくくるにふさわしい講座であったと喜んでいただきました。

また、次年度もカレッジに参加したいとの思いを強くされた講座となりました。格別のご配慮をいただきました「大津シンフォニックバンド様」に衷心より厚く御礼申し上げたいと存じます。ありがとうございました。



平成28年度あいこうか生涯カレッジの記録

■理論学習講座

講座	日時	テーマ	講師
第8講	9月24日(土) 10:00～12:00	食文化からみえること ～日韓比較～	立命館大学経済学部 教授 朝倉 敏夫
第9講	10月1日(土) 10:00～12:00	「白川静」と漢字の世界	立命館大学白川静記念東洋文字 文化研究所 後藤 文男
第10講	10月22日(土) 10:00～12:00	運動機能の評価と介護予防に向けた 運動療法	立命館大学健康科学部 助教 藤本 雅大
第11講	10月29日(土) 10:00～12:00	健康づくり運動	立命館大学健康科学部 教授 藤田 聡
第12講	11月5日(日) 10:00～12:00	よくわかる金融政策Ⅰ ～異次元の金融政策を金融の基礎から考えよう～	立命館大学経済学部 教授 松本 朗
第13講	11月12日(土) 10:00～12:00	よくわかる金融政策Ⅰ ～異次元の金融政策を金融の基礎から考えよう～	立命館大学経済学部 教授 松本 朗
第15講	12月10日(日) 10:00～12:00	6次産業化は地域活性化の切り札に なるか	立命館大学経済学部 教授 松原 豊彦

第8講 食文化からみえること ～日韓比較～

(会場:立命館大学 BKC)

今回の講師は、韓流ドラマ、あの「チャングムの誓い」で食事面を監修された朝倉敏夫先生。それが分かると、教室内では自然と拍手がわきました。日韓の食作法の違いから、歴史・文化・社会に対する認識の違いを楽しくかつ理論的に解説をしていただきました。講義後の感想。「近い国なので、実際に行って実体験をしてきたい」「韓国に対する多少の嫌悪感も和らいだ」「この講義をもう少し早く受けていたら、はまっていた韓流ドラマももっと多方面から見られた」「ハングルに興味を持った」等、受講生は、今回の講座に満ちた様子でした。

「似て非なる文化」を持つ日韓、相互理解が進むことによって、改善される問題も多いのではないか、と思わせるに十分な講座となりました。



第9講 「白川静」と漢字の世界

(会場:立命館大学 BKC)

古文書の解読等、文字に関心の高い受講生が多く、32名の出席者を得て第9講が開催されました。1900年前、漢字の成り立ちをまとめた中国「許慎」の説に納得できなかった白川先生は、より古い時代の甲骨文字や金文の研究を進め、1つの発見をします。この発見が、今日の講座の中心テーマとなりました。匕(さい)の発見。「口」は、神への祈りの文を入れる箱(器)を表す形ではないかと考えたのです。

この日の講座は、私たちの常識を覆す大変興味深いものとなりました。講座日誌には、「漢字のおもしろさを知った」「日常何気なく使ってきた漢字もこれからは興味深く見ることになると思う」「漢字を駆使している我々の文化を誇りに思う」等、講座に集中された受講生の姿を写すようなコメントが記されました。



第10講 運動機能の評価と介護予防に向けた運動療法

(会場:立命館大学 BKC)

この日の内容は、運動機能の測定とその維持・改善のためのトレーニングエクササイズ。加齢によって運動機能は低下していくが、適切な運動処方とりわけ、筋力を鍛えることで転倒予防等、日常生活への大幅な効果が期待できる。受講生は、実技を伴った講義を受け、改めて自分の運動・体力不足を実感されたようでした。

講座記録には、「閉眼のバランスが悪いので中殿筋を鍛えたい」「部位を意識して筋トレをする」「筋力と平均余命の関連が分かった」「運動処方に必要な条件は安全性・有効性・継続性である」等、専門的なワードが、多く入るようになりました。講師の藤本先生には、繰り返し見たくなるような全ページカラーの資料を準備していただきありがとうございました。



第11講 健康づくり運動

(会場:立命館大学 BKC)

明快な結論をいただきました。① 筋肉は健康な生活を送る上で重要、② 筋肉・筋力の維持・向上にはたんぱく質摂取が必要、③ 運動は筋たんぱく質合成を増加させる、④ 運動とたんぱく質摂取の組み合わせが、健康維持のために重要。

その後は実技。セラバンドを使った太もも・背筋・肩等の筋力トレーニング。短い時間で気軽にでき、「これなら自分でも続けられそう」、「セラバンドを個人で持ちたい」、「筋肉の衰えが転倒につながる。筋トレをはじめたい」等の感想が寄せられ、運動への関心がより高まりました。「資料がよくできていて、メモをとる必要がなかった」、「途中休憩があり、ありがたかった」等、運営面も好評でした。



第12・13講 よくわかる金融政策～「異次元の金融政策」を金融の基礎から考えよう～ (会場:立命館大学 BKC)

2週連続の講座でした。率直な感想。私たちにはやや難しかったのですが、受講生全員、学生時代に戻った気分で熱心にメモをとったりPPに見入ったりしていました。日銀と市中銀行、そして金融市場との関連やしくみを中学や高校の教科書記述に照らしながら、現実の社会状況を解説されました。12講と13講の間に丁度アメリカの大統領選挙があり、受講のタイミングとしては最高でした。時間の制約等がなければ、私達の経済生活との関わりをさらに具体的に指導していただけたのではないかと思います。

受講生の中には、かつて金融機関に勤めておられた方もあり、専門的な用語が飛び交う場面もありました。講座日誌には、「今、お金をつかう時か、それとも貯める時か。」「老後のお金は、タンス預金がいいいのか。」「など極めて現実的な疑問や意見が記されておりました。

多くの方から、「これからは、政府や日銀のコメントを注意深く聞き、世の動向をしっかり注視したい。」との感想が寄せられました。



第15講 6次産業化は地域活性化の切り札になるか

(会場:立命館大学 BKC)

今日は理論学習講座最終回。講師の松原教授により、これまでの学びを「地域活性化」というワードで繋いでいただきました。「なぜ6次産業化が必要か」の命題には、①農業・食料を取り巻く情勢、②市民・消費者の変化、③経済社会の変化、④地域産業政策の転換、の視点からアプローチをしていただきました。また、甲賀市内ですすでに取り組まれている6次産業の実践事例をいくつか紹介していただき、講義内容が身近なものに感じられました。甲賀市は「6次産業化認定事業県1位である。」とのお話に、にんまりとされた受講生も多かったのではないかと、講師先生のご配慮が随所ににじむ最終回にふさわしい講義でした。ただ、「住民は、自分の地域にある活性化に繋がる素材に気づいていない」とのご指摘には、しっかり耳を傾けないといけなく強く思いました。



【閉講式】

第15講終了後、立命館大学の同会場で閉講式がありました。本年度は、正規受講生が30名、一部受講生が11名でした。

学長挨拶の後、ご来賓の岡本立命館大学教授、県教育委員会辰己主事からねぎらいのお言葉をいただきました。

その後、正規受講の中で、10回以上の出席があった29名に修了証書が授与されました。因みに、皆出席者は5名でした。



(閉講式後の記念撮影)